

まちの名に 歴史あり

問い合わせ 文化財事業団 (TEL 893・8111)



くらじ 倉治 倉治の名前の由来には、さまざまな説があります。「クラ」は岩や断崖、または倉庫や山の鞍部を指します。崖の下の扇状地に村があることや、蔵が立ち並ぶ地であったことから倉治とついたとも言われています。

倉治では古墳時代後期の古墳群や山中に造られた寺院跡などが発見されており、また集落は現在でも江戸時代の古い町並みの面影を濃く残し、複雑に入り組む道は迷路のようです。

～倉治～

ひがしうら 東浦 旧倉治の集落一帯を東浦と呼びます。「浦」という字には畑という意味があります。「浦」は表裏の「裏」の意味も持っており、集落の東の裏手にある畑を指しています。

他にも、この地名からは倉治が防衛機能を備えた環濠集落であった可能性が考えられます。環濠集落には「浦」「代」「口」のつく地名が多くみられ、倉治にも東浦を中心に「北代」「西口」などの地名が残されています。集落は北にがらと川、南は中川に挟まれており、中を通る道は狭く、カギの手に折れ曲がっていて、防衛に配慮した造りになっています。

ろんば 論場 関西電力枚方変電所の東の谷を清水谷(しみったん)とよび、この道を進むと白旗池へ抜け、枚方の穂谷へ出ることができます。白旗池の手前には台地状になっている場所があり、ここを論場と言います。

論場と言われるようになったきっかけは、明治に津田と倉治の間で起こった水争いにあります。清水谷の水を倉治か津田かどちらに流すかという争いでした。水は生死にかかわる重要なもののため、昔は水についての争いが多く起こり、対立が激化することもありました。この水争いを話し合うために、各村の代表がここで論争を行ったことから、論場という名がついたと言われています。

どうまえ だいぶつざか 堂前・大仏坂

教育文化会館の前を南に抜けると四辻にでます。ここを堂前(どうまえ・どろまえ)と呼びます。いつの頃からか分かりませんが、倉治の入り口にはお寺があり、堂前に大仏を安置したお堂が建っていたと伝えられ、堂前と呼ばれています。

大仏坂という名前が付いているのは、私部からの参拝者がこの坂を登って来たためとも、奈良の東大寺の大仏を造る工人がこの地を通ったためとも言われています。現在では、京阪バスの停留所や交差点の名前などに大仏という名前を残しています。



大仏坂